

リレーコラム：学校現場におけるグループの立ち上げ

廣瀬真理

スクールカウンセラー（以下 SC）をしていると、相談室に複数人の生徒がまとまって来室して語り出し、殆ど自然発生的にグループが生まれることがあります。このように生徒達が持って来た“グループの種”を SC が一緒に育んだり見守ったりしながら、“図らずともグループが生まれる”というパターンを経験した SC は少なくないのではないのでしょうか。一方で、今回のコラムのテーマである『グループの立ち上げ』を能動的に行う SC は少ないように感じます。年々相談件数が増えている中、SC 自らグループの種を準備し、学校へ企画をプレゼンする等かなり能動的な働きかけが必要となるため、限られた勤務時間の中で実行に移すことが難しいことは容易に想像されます。

～それでもなぜ学校でグループを立ち上げたいのか～

様々な葛藤がありましたが、それでも実行に移した理由は2つありました。1つ目は、個別のカウンセリングで定期的に不登校生徒達に会い続ける中で、「あの生徒とあの生徒が出会ったら、互いに得られるもの（SC との2者関係では得られないもの）・学び・支え合い・成長がある」と思えたからです。また、情緒的に安定してきたけれど適応指導教室等には気が乗らない…という段階の生徒達にとって、次の一歩として踏み出しやすいとも考えました。2つ目は SC がグループを立ち上げる過程で、グループアプローチのエッセンスが校内全体にじわじわと浸透していくと良いなという期待があったからです。

～グループ初心者の脳内会議～

前述の通り「グループを立ち上げたい！」というパッションがある反面、私の中で次のような脳内会議が繰り返されていました。

「グループの立ち上げをしたことがない私に、どの程度の技量があるのか？」

「私の身の丈に合ったグループ運営ってどんなやり方？」

「生徒にとって、グループに参加することのリスクとベネフィットは何？」

「何らかのネガティブな事象が生じた場合、SCとしてどんなフォローが出来る？」

「慎重に準備することは大切だけど、安心・安全・過保護にグループ運営しようとし過ぎることで参加者の体験の幅を狭め、それこそがネガティブな要因になる場合もあるのでは？」

などなど…たくさん自問自答したり、ベテラン SC に相談したりしました。自身の技量と向き合う中で、『学校でグループを立ち上げてもヨロシイ』という判定みたいなものを、いっそのこと誰かにして欲しいと思うこともありましたが、自分の技量を自分自身で真摯に見つめ、考え続ける時間は大切だったと感じます。そしてこの脳内会議の内容は、私が対応出来そうなグループの枠組みを考える際に大きく役立ちました。

～いざグループ企画を学校に提案～

「せっかくなら企画を何とか通したい！」という感情が湧いてくるのが人のさが…。ですが、グループをすること自体は目的ではなく手段だと思い返し、「何のために私は学校の中でグループを立ち上げるのか？」と心の中で反芻しました。

管理職から企画の承認を早々に得てしまうと、校内のいろいろな人の意見を取りこぼしてしまいそうな気がしたので、まずは出来るだけ率直な思いを言いやすい状況下で生徒や先生方の意見を聞くことから始めました。殆どは肯定的な反応でしたが、懸念点を伝えてくれた先生も居ました。例えば「悩みを持った不登校の生徒同士がグループで出会い、繋がることで、辛い気持ちを増幅し合ってしまうことはないだろうか」という趣旨の意見です。こうやって少し言いづらいことをアサーティブに伝えてくれることは有難く、グループ企画について再考しブラッシュアップする機会となりました。

その後、校長先生に話を持っていき、感触が良かったため「実はもう企画書も作ってまして…」と直ぐさまプレゼンをして、校内の会議にかけて企画が通ったという流れでした。

～初心者の等身大の取り組み～

もしかすると私の取り組みは慎重過ぎだったかもしれません。脳内会議の結果、グループへの参加条件をかなり厳しく設定したため、結局2人の生徒にしか声をかけられませんでした。企画書を作り、あらゆる先生に声をかけ、会議を通してグループの立ち上げをした訳ですが、最終的な私の最初の1歩はとてとても小さいものでした。それでも、まずは無事にグループを立ち上げることが出来て、参加者のフィードバックが良かったことは嬉しかったですし、グループ企画を提案する過程でグループの持つ力を学校に発信する機会を得たことも良かったです。そして、校内にある通級指導教室でもグループ活動を導入出来ないかな？と話題に上がったことも嬉しい展開でした。

もし誰かに「グループの立ち上げて労力に見合っていたの？」と問われたら、「分からないけど、やって良かったのは確か！」と答えますね。